



9月に開催した「主婦休みの日」父子イベント「絶品！卵がけご飯をつくろう」。君津市で行われ、産みだてのたまごと新米のご飯、野菜たっぷりの豚汁を作って食べた

主婦の元気が日本を動かす！ 新記念日「主婦休みの日」が浸透中

不況だからこそ、主婦の元気と家族の絆が大切と考えたサンケイリビング新聞社が、「主婦休みの日」（1月25日、5月25日、9月25日）を日本記念日協会に登録して1年半が経った。主婦や企業の共感を呼び、新たなムーブメントとして広がりを見せている。

主婦はリフレッシュ、夫と子どもは家事に挑戦、新たな需要を拡大

「たまには主婦も休みたい」。そんな読者のつぶやきから始まった「主婦休みの日」プロジェクト。アンケートを元に決まった、年末年始GW、夏休みなど長いお休みのあとの給料日が「その日」である。ゆっくり休んでリフレッシュ、プチ旅行、自分磨きなど、したいことはさまざま。「自分からは言い出しにくいけれど、そんな日を持てたらイキイキと過ごせそう」と共感を呼んでいる。一方、夫や子どもに対しては、家事の大変さや大切さを共有し、家族の絆を深める日としてアピールも。

リビング新聞では、女性リーダーや男性著名人の「主婦休みの日応援メッセージ」「家事力を子供に伝えよう」「主婦休み応援団とクチコミ・ミセス座談会」など多彩な企画でプロジェクトを盛り上げてきた。最近では、TBSの人情情報番組「はなまるマーケット」で取り上げられるなど、マスコミも注目。企業からの協賛や問い合わせも急増している。

※ 2010年7月 ウェブ（えるこみ）アンケート。
有効回答者は既婚女性 1319人

Interview



主婦は家族の太陽 その笑顔をたくさん作っていききたい

サンケイリビング新聞社
第1営業局編集チーム（リビング新聞担当）編集長
新山明子

リビング新聞は主婦の代弁者です。主婦の願いを実現しようとのプロジェクトは始まりました。「主婦休みの日」は主婦が楽をする日ではありません。がんばる主婦がリフレッシュし、笑顔になるためのリセットの日なのです。

一例として、夫の手帳やカレンダーに貼ったりして、「主婦休みの日」をさりげなくアピールできるよう、昨年イベント「シェフフェスティバル」では「主婦休みの日シール」

を配りました。このシールがきっかけになり夫婦の会話が弾んだり、子どもが「これ何の日？」と気付けてくれると嬉しいですね。家族や社会の理解があってこそ、主婦は気兼ねなく休むことができます。

今後はもっとPRを強化し、企業などにも働きかけ、夫や家族が気持ちよく送り出してくれるような環境づくりをしていきたい。長く続けてこそ広がるもの。いつかは日本全国を主婦の笑顔でいっぱいにしたいですね。



「主婦休みの日」キャンペーンロゴ。趣旨に賛同する企業の広告やその商品などに使用可能

2011年のチャレンジ

- ★ 時短家事イベントを開催
- ★ 「主婦休みの日」を全国に広めるためのしかけ作り
- ★ リビング新聞創刊 40 周年の記念イベント開催